

Love x Communication = Peace

データベース・サービスカンパニー

株主通信 第18期 中間報告書

2017年4月1日～2017年9月30日

SERENDIPITY



データベースで人と文化をつなぐ

株式会社ソケット

<http://www.sockets.co.jp>

証券コード：3634

社長から株主の皆様へ

株主の皆様、いつも当社へのご期待と関心をありがとうございます。
ます。

6月以来のお手紙となります。

“息吹”と“葛藤”、わたしは今その両方を感じています。

まず、“葛藤”についてお伝えさせて頂ければと思います。

当社の収益体質はこの2年ほどで格段に良くなりました。全売上に占める当社の主力データライセンス売上比率が40%を超えるようになってきており、粗利率もこの2年で倍近くになっています。古くからの株主の皆様には、本当にご心配をおかけしました。数年前までの赤字が出るような状況では、今はありません。

データベースサービス会社として新たな、そして確かな一歩を踏み出した、ということは間違いありません。ただ「何かが足りない」そんな思いに駆られることも少なくありません。会社として足りないものは、いくつもあります。エンジニア、営業、プロジェクトマネージャー、まだまだ足りません。社内の文化や成長環境もまだまだ目指しているものとは遠いです。

素晴らしいプロダクツやサービス、より先進的なR&D、そして売上も利益も、まだまだ足りないものはたくさんあります。ただあらためて、“ソケットならではのオリジナルのビジネスモデル”への渴望をたいへん強く感じています。確かにライセンス先は急速に広がってきていますし、その先の広がりを楽しみなのですが、感性データベースならではの、感性AIならではの、いずれにしても世の中でどれだけ使われるか、「使われてなんぼ」という世界で、売上は「使われる量」利益は「その中での価値」と考えると、本当にわれわれの感性AIはまだまだ使われていないのだな、という事実に向き合っています。もちろんだからこそ、まだまだこんな

ものではありませんし、だからこそ、よりファイトしていくのですが。

この渴望感はわたしにとっては強烈です。自分も今、開発チームの一員でもあるのですが、良いものが出る喜びとは別のところで、悶々としています。皆様にお約束します。当社は2018年に必ず、まずはソケットならではの、感性AIならではのビジネスモデルを創ります。そしてそれを2020年に向かって、今の社会に無くしてはならないものにします。

どんなに良いデータベースも、日本でも、たとえ世界でも希少なデータベース技術でも社会で使われなければ何の意味もありません。自己満足でしかありません。みんなでより良い開発、より良いサービス創りを続けます。そして皆様に知って、使ってもらえるように必ずします。葛藤をやめることをしません。

“息吹”これは当社のもうひとつの今です。

創業以来、結果的にここまで、エンターテインメント×テクノロジーの世界を切り開いてきたのですが、いよいよそのうねりが、波となって目の前に現れてきました。エンターテインメントは、経験、勘、人脈、歴史、才能、情熱、これらによって支えられているのは、昔も今も、そしてこれからも変わらないと思います。しかしこれからは、もうひとつの支えるものとして“データ”、この存在が、エンターテインメントビジネスに新たな可能性や価値を生むと信じています。エンターテインメントを創る世界に、データや感性AIが入っていくことは、まだまだこれからだと思います。ただ、エンターテインメントを広げたり、繋いだり、届けたりする世界は、データのより高度な活用により一気に変わっていく可能性があります。

当社が実現したいことは、もっと音楽、映像、書籍などがより多くの人達に届いていくこと、それによってクリエイターやアーティストが報われること、その結果、より良質なエンターテインメント

が社会に生まれていくこと、それらを繋ぐことにあります。それらを目的に当社は、独自の感性データベース、AI、ブロックチェーンなどの技術開発を続けています。そして、わたしは良質なエンターテインメントは、人に気づきや想像力をもたらすと信じています。わたしは、現在のAIスピーカーに代表されるVoice Assistant（音声応答）の仕組みは、エンターテインメントの世界を今までに無いカタチで広げていくと思っています。ただ今の仕組みではまだまだ、今までに無いカタチ、とまではいえません。いわば単なる音声命令システムです。

もし横にものすごく音楽や映像や書籍などに詳しい人がいて、詳しいだけでなくセンスのいい人がいて、その人が自分のことをすごく良く分かってくれていて、何気ない会話から

「なんかいい感じ」「いつものやつ」「ちょっといつもと違うやつ」この3つの言葉のやりとりで、その時々自分に合った良質な音楽、映像、書籍、エンターテインメントに触れることができれば、をソケットは実現します。ソケットが創業以来開発をしてきたオリジナル感性メタデータ、現在取り組んでいる感性AIは、このような人間の曖昧な好みや感覚をマシンリーダブル（機械が理解することができる）にすることに最も適しています。

そして音楽、映像、書籍は、いうまでもなく、人間の感性の塊です。エンターテインメントを通じ人間の感性に寄り添える技術を創るソケットが向かう先は、人それぞれの、その時その時の感性を繋ぐ生活提案です。つまりマーケティング、広告となります。

音楽、映画、ドラマ、書籍などから得た人間の感性のしずく、それらのデータベース化で培った技術を、旅行、イベント、グルメ、ファッション、食品、飲料、不動産、そして自動車へと広げ、ソケットにしかできない「人の感性と触れ合う価値ある生活提案サービス」を創ります。

「エンターテインメント×テクノロジー」発「感性マーケティング」行これがソケットの道標となります。

道はまだまだ険しいです。ピンチもあればチャンスもあると思います。

どんな事実にも向き合い、乗り越え、突き抜けていきます。

一步、一步、ただし歩みはより強く速くしていきます。

お陰様でこの半年で、Yahoo!様へのデータライセンス、ユニバーサル ミュージック様でのデータ・ドリブンのマーケティング支援コンサルティングも始まりました。当期の残りもデータ・サービスライセンスは、まだ新たな提供を開拓していきます。

そして当社ならではのAIスピーカー向け音楽AI (Voice Assistant for Music) もどこかで皆様に良い報告を出来ればと思います。

ソケットの感性メタデータ、感性AIは、人の気持ちと機械を繋ぎます。そして、人と人を繋ぎます。

もっと人の想像力を広げることに役に立ちます。

たくさんの人に使ってもらえるようにします。

株主の皆様のご期待や関心は、わたし達のエネルギーです。

ソケットならではの感性データ技術で、皆様と共にまだ見ぬ人の感性の翼を広げることにチャレンジできればと思っています。

どうか、引き続き、ご支援のほど、よろしく願いいたします。

2017年冬

代表取締役社長

浦部 浩司

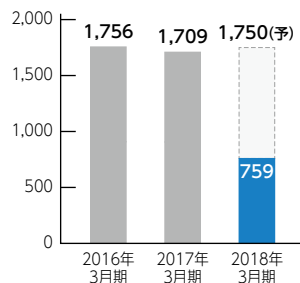
第18期 (2018年3月期) 第2四半期業績概要

Business Outline

■決算ハイライト

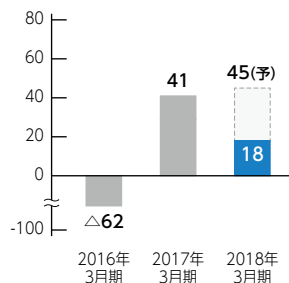
● 売上高

(単位：百万円)



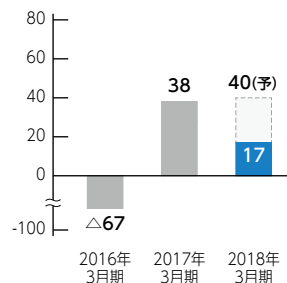
● 営業利益

(単位：百万円)



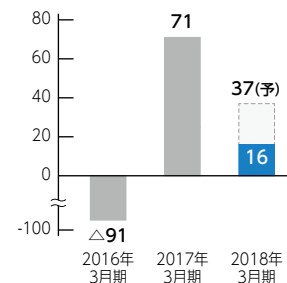
● 経常利益

(単位：百万円)



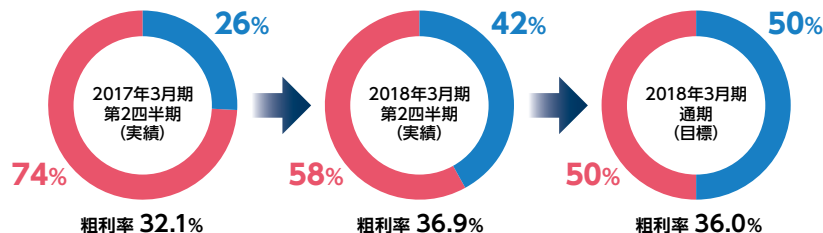
● 当期純利益

(単位：百万円)



データ・サービスライセンス事業拡大、売上の40%超まで成長

■ ライセンス収入 ■ 開発/運用/コンテンツ収入

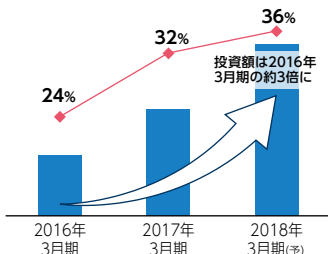


- 期初予想通りに推移
- データライセンス事業が成長、粗利率が前年同期比4.8pt増の36.9%に
- 事業売却や開発事業減少など、事業構造改革の影響で売上高は前年同期を下回る
- R&D/データ開発へ通期計画営業利益額の8倍規模の投資を計画通り実施中
- 通期計画は変更なし

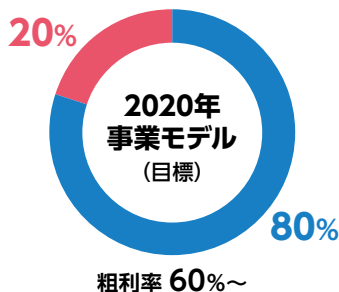
データライセンス事業拡大
粗利率向上
事業構造改革進む

R&D/データ関連投資額と粗利率の拡大により

■ ライセンス収入 ■ 開発/運用/コンテンツ収入



■ R&D/データ関連投資額 ◆ 粗利率



積極投資により更なる
高付加価値事業モデルへ

データベース × AIの開発をベースに

エンターテインメント × テクノロジー エンターテックの進展

感性マーケティング

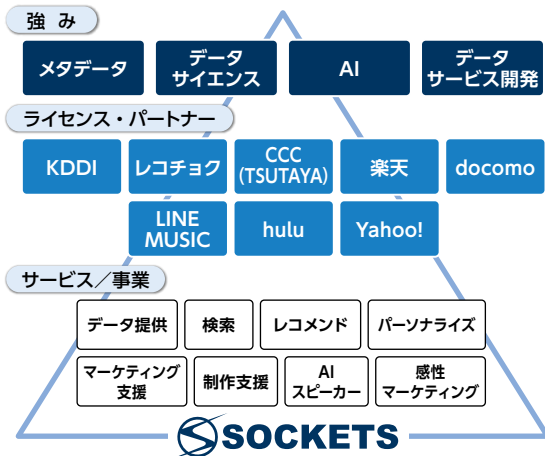
日本におけるエンターテック市場を開拓

当社エンターテインメントデータ解析統合プラットフォーム

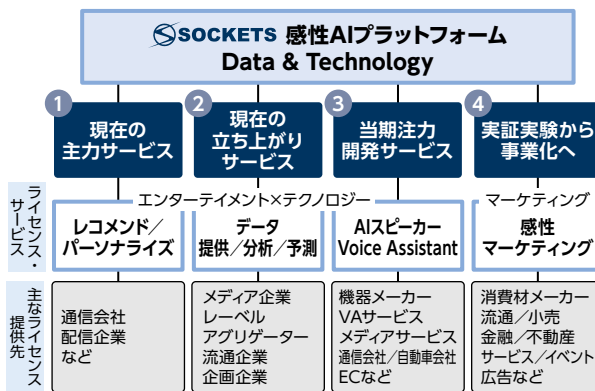
- これまで個別の技術・サービスであったログ解析、メタ活用、SNS/Web分析、感性AIエンジンを統合したクロスデータ分析ソリューション
- Data Analysis Platformによって、ソケットズならではの客観的視点や各種ログデータのクロス活用、SNS等の外部データに感性メタを掛け合わせ串刺し活用することで、各サービスプロバイダーのプライベートDMP（Data Management Platform）のみでは得られない分析・考察を効率的に提供することが可能に
- ビッグデータ活用の世界的な動向であるデータドリブによるマーケティングROIの最大化から、感性AIエンジンを活用したヒット/興行予測、アーティストアナリティクス、Musicブロックチェーンのデータ形成まで行うエンターテインメントデータ解析のフラッグシップへ



エンターテックの基盤づくり

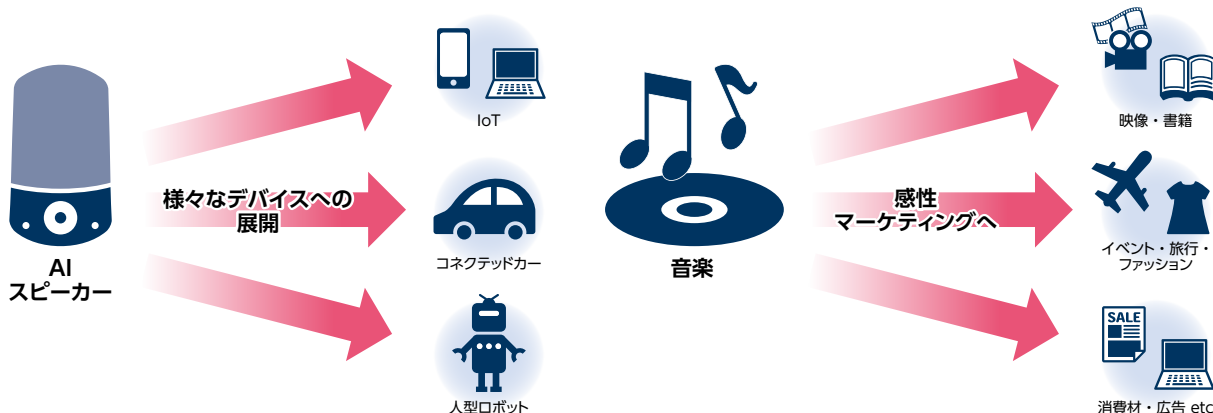


感性AIライセンス事業 4本柱確立へ



当社市場の拡大

■ 感性AIエンジンの広がり



TOPICS

感性AIを活用したアーティストアナリティクスを開始

2017年8月

第1弾としてユニバーサル ミュージックヘプロデュースプランニング分析を提供

当社は、独自のMSDB（メディアサービスデータベース）とアナリティクスチームのアーティスト分析、楽曲分析など、感性AIにおけるノウハウを活かした「アーティストアナリティクスサービス」の提供を開始しました。

リスナー・ファンのニーズを可視化することで、アーティストの楽曲制作や今後の活動方針検討に活かされ、両者の接点により魅力的なものとなるよう、改善を重ね継続的に取り組んでまいります。

第1弾として、ユニバーサル ミュージック合同会社所属のアーティストについての分析サービスを提供。2組目のアーティストの分析にも着手しています。

Yahoo! 検索向けに音楽データベース提供を開始

2017年10月

当社は、ヤフー株式会社が提供する検索サービス「Yahoo! 検索」向けに音楽データの提供を開始しました。

この取り組みは、「Yahoo! 検索」のユーザーが音楽関連のキーワード（アーティスト名/曲名/アルバム名など）で検索した際に表示される検索結果の音楽関連情報を整備することで、必要な情報にたどり着きやすくすることを目指しています。

- 曲名で検索した際に、レコード会社及びアーティストが提供する公式のビデオクリップを結果として表示
- ディスコグラフィ、公式のソーシャル情報、所属レーベルなど、ユーザーが知りたいアーティスト関連の情報を提供
- 各アルバムのジャケット画像、曲のタイアップ情報、再生時間など、アルバム及び曲の詳細な情報を整備し提供

財務諸表

Financial Statements

第2四半期貸借対照表

単位：百万円

	当第2四半期末 (2017年9月30日現在)	前事業年度末 (2017年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	788	817
固定資産	398	389
有形固定資産	23	23
無形固定資産	203	211
投資その他の資産	171	154
資産合計	1,186	1,206
(負債の部)		
流動負債	209	254
固定負債	54	50
負債合計	264	304
(純資産の部)		
株主資本	884	868
新株予約権	37	34
純資産合計	922	902
負債純資産合計	1,186	1,206

第2四半期損益計算書

単位：百万円

	当第2四半期累計 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	前第2四半期累計 (自2016年4月1日 至2016年9月30日)
売上高	759	906
売上原価	479	615
売上総利益	280	291
販売費及び一般管理費	262	261
営業利益	18	29
営業外収益	1	2
営業外費用	1	3
経常利益	17	28
特別損失	—	1
税引前四半期純利益	17	27
法人税、住民税及び事業税	1	1
法人税等合計	1	1
四半期純利益	16	25

第2四半期キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	当第2四半期累計 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	前第2四半期累計 (自2016年4月1日 至2016年9月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー	79	92
投資活動による キャッシュ・フロー	△74	△28
財務活動による キャッシュ・フロー	△50	△175
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△45	△111
現金及び現金同等物の 期首残高	557	582
現金及び現金同等物の 四半期末残高	511	470

▶ P/Lのポイント

ライセンス事業が拡大し売上高比率の42%まで成長したことで、粗利率はさらに上昇し36.9%に

▶ B/Sのポイント

実質無借金、自己資本比率は前期末から2.7pt増加し74.6%へ
負債は前期末から40百万円減少し、財務基盤がさらに強固に

株主還元について

当社の長期的発展をご支援いただいております株主の皆様への利益還元として、期末配当を実施いたしております。2018年3月期は、足元の状況及び経営環境、並びに配当金の規模等を総合的に勘案した結果、誠に遺憾ではございますが、無配とさせていただきますこととしております。

株主の皆様におかれましては、ご理解をいただくとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

基準日	1株当たり配当金		
	第2四半期	期末 (普通配当)	年間
配当額	—	—	0円00銭

(2017年9月30日現在)

会社概要

商号	株式会社ソケット
英文社名	Sockets Inc.
設立年月	2000年6月
本社所在地	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-23-5 JPR千駄ヶ谷ビル3F
電話番号	03(5785)5518
従業員数	61名
事業内容	インターネットを活用したサービス、 アプリケーション、データベースの開発・提供

役員

代表取締役兼社長執行役員	浦部 浩司
取締役	石川 鉄男
取締役(社外取締役)	鶴飼 幸弘
取締役(社外取締役)	佐藤 明
常勤監査役	山本 実
監査役(社外監査役)	大塚 一郎
監査役(社外監査役)	今西 浩之
執行役員	芳林 知仁
執行役員	阪上 淳一
執行役員	小田嶋 俊和

株式の状況

■発行可能株式総数	7,420,000株
■発行済株式総数	2,461,000株
■資本金	4億9千万円

大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
浦部 浩司	732,000	30.06
カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社	240,000	9.85
K D D I 株式会社	240,000	9.85
株式会社フェイス	145,000	5.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	96,200	3.95
株式会社フィスコ	57,800	2.37
株式会社SBI証券	57,500	2.36
芳林 知仁	55,100	2.26
伊草 雅幸	41,000	1.68
香味 孝之	32,400	1.33

(注) 持株比率は自己株式(24,554株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法	当社のホームページに掲載する。 http://www.sockets.co.jp/ir ただし掲載できないときは日本経済新聞に掲載する。
上場証券取引所	東京証券取引所マザーズ

(ご注意)

- 株主様の住所変更、配当金の振込のご指定、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せ下さい。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意下さい。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せ下さい。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。